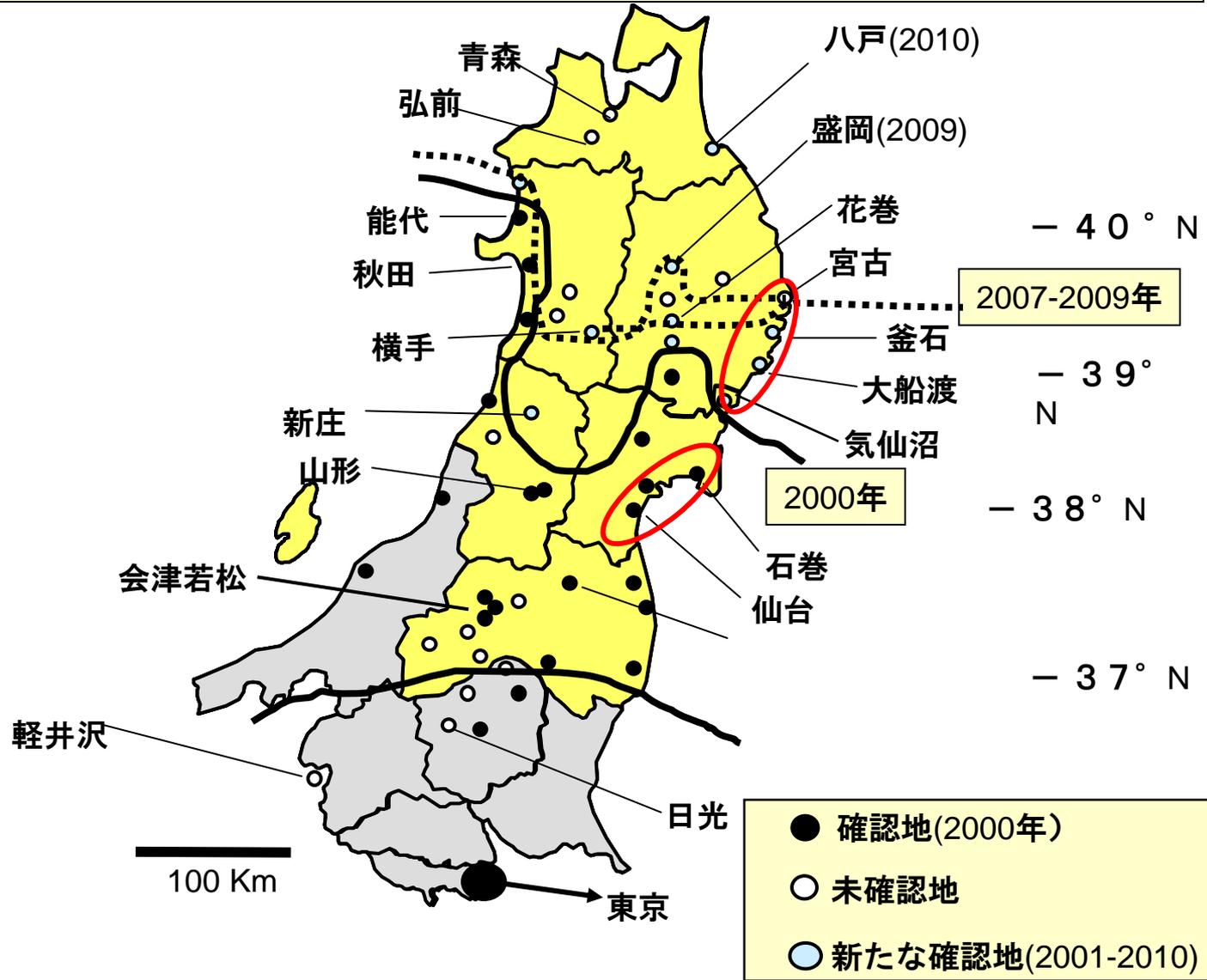


# 気候変動と震災： 感染症における適応策研究

倉根一郎

(国立感染症研究所)

# 東北地方におけるヒトスジシマカの分布(2010年)



2000年以降新たに定着が確認された気仙沼以北の地域とそれ以前に定着が確認された石巻以南の被災地域における媒介蚊の再侵入のモニタリング

# 媒介生物相から見た生態系のモニタリング (例-1)

- ヒトスジシマカは重要な感染症媒介蚊である。津波被災地においては、ヒトスジシマカが最近定着した太平洋沿岸都市(大船渡、気仙沼)と、20年以上前から定着が確認されている沿岸都市(仙台、石巻等)とが存在する。津波によって海水が侵入した地域において、ヒトスジシマカがどのように新たな生態的地位を再度確立するか？

# 津波によって全て破壊された環境

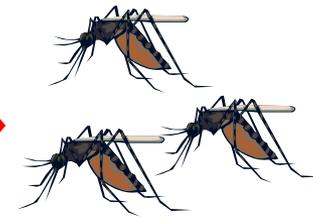
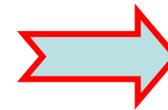
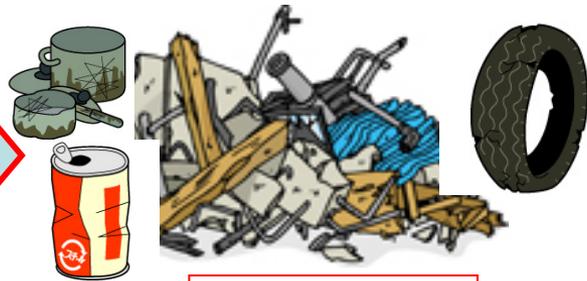
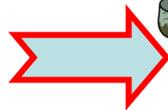
媒介生物相から見た生態系遷移のモニタリング  
: 震災復興の視点



長期  
(年単位)



短期  
(H23. 3.11)



非被災地からの  
新たな侵入  
(運搬車両等)



廃棄物等から  
の発生



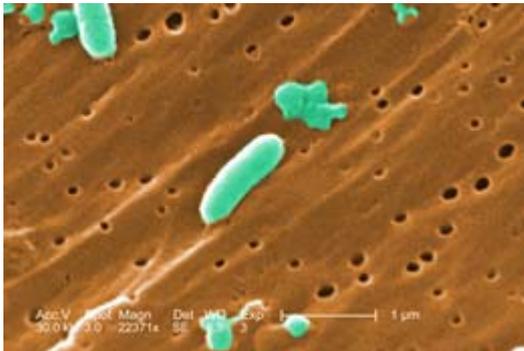
媒介生物相の回復

# 媒介生物相から見た生態系のモニタリング (例-2)

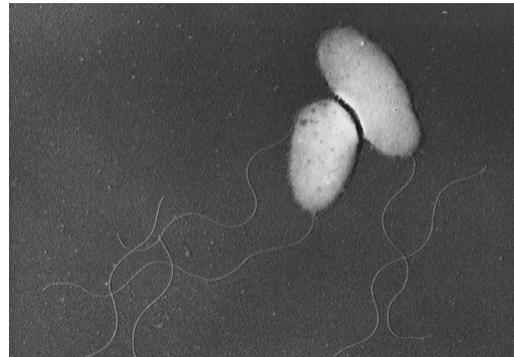
- 津波によって発生した瓦礫は数千万トンに達している。ヒトスジシマカの幼虫は空き缶、ペットボトル、バケツ、古タイヤ、墓地の花立てなど小容量の水溜まりに発生する。また、吸血源動物の種類も人をはじめとして、ネズミ類、鳥類、は虫類など多くの動物から吸血し、産卵することが可能である。 **瓦礫の集積場周辺でのヒトスジシマカの発生状況は？**

# 水媒介性感染症に及ぼす大震災の影響

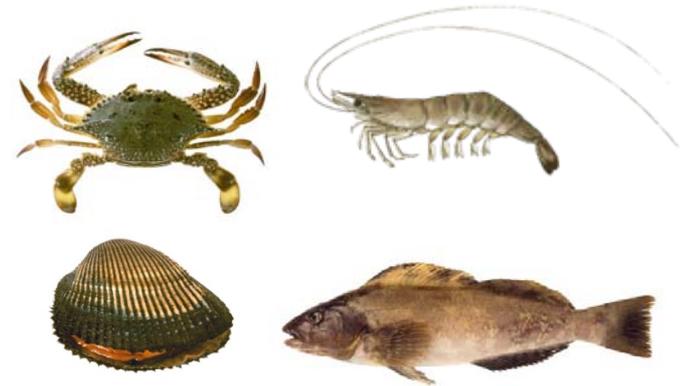
- ビブリオ属菌
- 海水・汽水域に生息する環境細菌
- ヒトに腸炎などの病気をおこす
- 大震災による汽水域塩濃度等の変化による影響は？



*V. cholerae* (CDC)



*V. parahaemolyticus* (NIID)



# ま と め

- 大震災や津波の感染症への影響評価は、環境、気候のモニタリングを含め短期、長期、両視点からの研究が必要。